

tomorrow



【特集】
サンセット・コースト
オーストラリアン・ウエストエンド
最果ての楽園に沈む豪華な夕日

town navigation
クルマで行く旅

千葉、南房。

tomorrow interview
深津絵里



シドニーから西へ向かって3000キロの荒涼とした赤土の砂漠と岩山のアウトバックを、ラクダに乗って横断したひとりの女性がいた。彼女の名はロビン・デビッドソン。クイーンズランド州生まれの冒険家だ。その孤独な旅を写真と文章で綴った世界初のCD-ROM付き写真集として話題を呼んだ「FROM ALICE TO OCEAN」(1992)には、アウトバックの厳しい自然とは対照的な、輝く白砂と穏やかに透き通った水のきらめく楽園としてのインド洋に到達した歓びが感動的に描かれている。オーストラリアン・ウエストエンド(西の果て)、そこは最果てのパラダイス。インド洋に沈む夕日の神々しいまでの美しさから、その海岸線はサンセット・コーストと呼ばれている。

サンセットコースト オーストラリアン・ウエストエンド 最果ての楽園に沈む豪華な夕日



【パースからの日帰り軽飛行機ツアー】
サンセット・コーストを空中遊覧する日帰りツアーは
電話やFAXで簡単に申し込める。

問い合わせ先
Flightseeing Tour
37 Eagle Drive
Jandakot Airport WA 6164
TEL (09) 332-5011 FAX (09) 417-2246

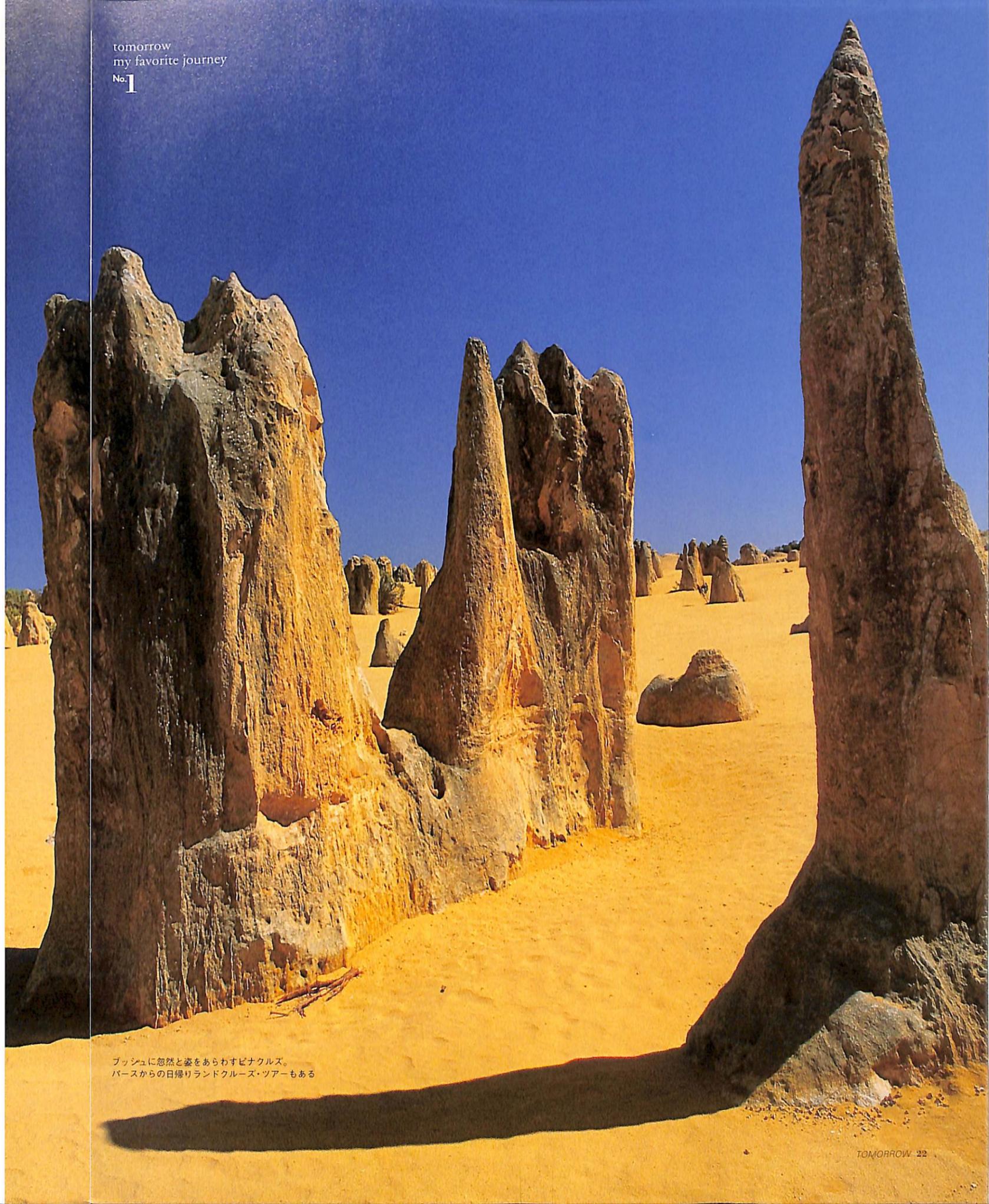


青空と溶け合うターコイズブルーの海 サンセットコーストフライイングツアー

サンセット・コーストを空からめぐる旅に出ることになった。「こんな小さな飛行機に乗るのは初めてなんだ」と不安をぶつけると、パイロットのスチュワート・バーンズ氏は「大丈夫。車に乗るようなもんさ (Just like a Car)」と笑った。そして、「おとといも、二人のかわいい日本の女の子と一緒に空中遊泳さ」とニヤリ。

パースのシテイスケープを真下に飛び越え、と、サンセット・コーストが見えてきた。ターコイズブルーに染まったインド洋と白い海岸線が続く。青空と海を隔てるはずの水平線が視界から消え、白い波頭がくっきりと岩礁や浅瀬をたどる。離れ小島の入り江に浮かぶヨットの白い帆が目にもまぶしいほど輝いている。

サービスピ精神旺盛なバーンズ氏は、注文に応じて空中旋回を繰り返してくれる。いつのまにか、スリリングな空の旅がヤミつきになってしまった。



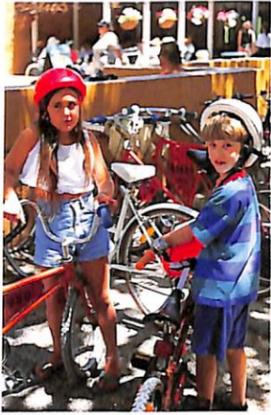
ブッシュに忽然と姿をあらわすピナクルズ。
パースからの日帰りランドクルーズ・ツアーもある

軽飛行機から地上に降り立つと、驚嘆すべき光景が待っていた。荒野の墓標とも称される化石の森ピナクルズは、パースの北250キロ、ナンブング国立公園の中にある。この1000を超える砂漠の奇峰岩は、太古の昔無数の貝が海岸に打ち上げられたものが砂丘をつくり、長い年月のうちに石灰層となり風化してきたという。周囲には野生のエミユやカンガルーもいて、ランドクルーズしていると出くわすこともある。ここは動物たちの楽園でもあったのだ。



さて、再び軽飛行機に乗ってロットネスト島へ。今度は一変してオージーたちの楽園だ。ロットネスト島は周囲わずか16キロのなごみの小島。潮風にそよぐヨットでクルージングするもよし、サイクリングでハイキングに出かけるのもよし、クオッカと戯れるのもよし……。
ここではオージーたちののんびりした時間感覚に合わせるしかない。あせることなくなんて何もなし。オージー流のインド洋の休日って、ホントにお気楽極楽……。

オージー流インド洋の休日



車の運転は認められていないので、
自転車唯一の足



この島は、子供たちの楽園。週末には家族でやってくる



クオッカは、ロットネスト島だけに棲息する
愛嬌ある野生動物だ



ビーチリゾートを 心ゆくまで満喫するための サンセット・コースト コンドミニアム・ライフ

サンセット・コーストの一日は、水平線の果てから打ち寄せてくるゴージャスな白い波音が耳元に届くことから始まる。目を覚まし窓の外を眺めると、紺碧の海。インド洋の朝だ。ビーチに出かけ、波の音を聴いてみよう。うねるような豪快な音の世界に引き込まれてしまえばいい。海をひとりじめしてみたい気分になってくる。

ビーチ沿いのコンドミニアムで暮らすオージーたちは早起きだ。ようやく空が白み始めたかなと思ったら、もう姿を現している。波打ち際をジョギングするおじさん。犬をつれ水辺を散歩する少女。朝飯前にコンディショニングを整えるサーファーたち……。とにかく、彼らのリゾートライフは水際から離れることがない。



早朝からジョギングをするカップルも多い



なまめいにもならないビーチサイドの一日



監視員の仕事もひと夏中続く

さて、コンドミニアム・ステイの提案だ。ビーチリゾートといったら快適なホテル暮らし、といった認識を少し改めてみようという話。もちろん、ホテルでは自分が望むあらゆる快楽に身をゆだねる権利がある。だけど、ちょっと待って。究極のホテルライフを追求することは、案外簡単!?なことではないだろうか。

そもそも人はどうして水辺にリゾートを求めたのだろうか。暑い日ざしとまばゆい光線、乾いた浜風に身をさらしていると、じかに水に触れたくなるだろう。それは即物的だけれど、もしかしたら本能的な欲望だ。アクティブに快活にドルフィンのように、サーファーとなって波間を躍り出ることができたら、どんなに気持ちがいいだろう……。

そういう身体本来の欲望に素直に従うことにかけては、オージーたちのライフスタイルは恰好の标本となる。彼らのように、大らかにごく自然にビーチの風景に溶け込んでいたい。ずっとこの街に住んでみたいな感じで、リゾートしていたい。

そう感じ始めたしたら、むしろコンドミニアム・ステイが都合だ。ホリデイ・アパートメントといった方がわかりやすいかもしれない。要するに、自炊洗濯しながらのビーチ暮らし。ハワイではもうおなじみだら



人工砂浜のあるプールサイドで午後の昼寝を楽しむ



物心ついた時から波乗りをやっている



このビーチでは人間とカモメが共存している

う。もちろん、サンセット・コーストでもホビュラーなスタイルだ。コンドミニアムの特典をあげればキリがない。まず、広くて快適なスペース。部屋はホテルのスイート並みでも、料金は格安。長く泊まれば泊まるほど、家賃と同じで割安になる仕組み。家族や気の合った仲間とのんびり気ままに過ごすには恰好のアコモデーションだ。そのくせフロント・サービスはホテルと一緒。鍵や貴重品を預かってくれるし、手紙や電話も取り次いでくれる。だからセキュリティも万全。スタッフは友だち気分のもてなしだ。清潔キッチンを存分に使いこなすのも楽しい。野菜とシーフードをふんだんに使ったヘルシーフードも、これだけピカピカのキッチンを前にすれば、お手のものって気分になる。ランドリーも完備。Tシャツもスチームウエアも、ランドリーに放りこんでテラスに干しておけば、数時間で乾いてしまう。ファシリティーだって充実。自然に飽きたら、レストランで食事をすればすむことだし、プライベート・プールやバーベキュー・コーナーはオージーのアウトドアライフにはなくてはならないもの。すべてがナチュラルだ。

何よりビーチサイドで暮らす感覚を存分に楽しめるところが素晴らしい。近所にはスーパーもあれば、ビーチ暮らしに必要な小道具は何でも揃えられる。ビーチサイドの小道を、南国産のフルーツやバケットを籠に放りこみ、自転車で行



ジャグジー・バスもあって、広々としたベッドルーム

抜け、風になってしまうのはサイコーの気分……。ウエストコーストの心地よい風。柔らかに、あつたかくて、それでいて包み込むように絶えず寄せてくるインド洋の波。波と戯れているうちに、サーファーの少年やジョギングおじさんと、仲良くなっている。コンドミニアム・ライフは、そんな思いをすべて無理なく実現させてくれるはずだ。

そして、日没。サンセット・コーストの名に恥じないでつかい目だ。さすがにこの時刻になると、サーファーたちもいなくなり、人だかりもまばら。海岸には恋人たちのシルエットがあるのみ。空が真っ赤に焼けたかと思いきや、天空にはサザンクロスが輝いている。

何もかも忘れてしまおう。自然の流れの中で生きていくことに気づく。決して大げさな話じゃなく、オージーたちなら誰でもやっているカジュアルなバケーション。それがコンドミニアム・ライフだ。

サンセット・コースト近郊 One day トリップ Exploring Westend

86年より日本からバスへの直行便も飛び、サンセット・コーストはますます身近になった。コンドミニウムを拠点にして、近郊都市の探訪やさまざまなワイルドライフなど、充実したOne day トリップを楽しもう。



フリーマントル
1829年スワン河口に建設されたフリーマントルは、開拓時代の面影を残す港町。1986年のアメリカンズカップで一躍有名になった。週末にはマーケットが開かれ、にぎわう。州の象徴ブラックスワンが目印の市庁舎や海洋博物館、オランダ人上陸以来の歴史を展示したフリーマントル博物館、1991年まで刑務所として使われていた建物を一般公開した旧フリーマントル刑務所など、街全体が博物館のような美しさで散策が楽しめる。バスからは、郊外電車で約30分。フェリーで約35分。



アンダーウォーター・ワールド
88年3月にオープンしたユニークな水族館。長さ98mの水中回廊からインド洋のエイヤサメが自由に泳ぎ回る姿を間近にウォッチングできる。イルカのショー、ネコザメやヒトデなどをじかに触れるタッチプール、電子顕微鏡を使って海洋生物の細部を観察するマイクロワールドなど、家族で楽しめるアトラクションが盛りだくさん。そばには50店舗のショッピング&レストランが並ぶ一大コンプレックス、ヒラリーズ・ハーバーもある。
◆Hillarys Boat Harbour. (09) 447-7500



パース
西オーストラリアの州都パースは、赤土の荒野に隔てられた世界で最も孤立した都会。シドニーから西へ3000kmのアウトバックの旅を終えると、忽然と姿を現す荒野のオアシスだ。街を流れるスワン河は今でも巨大なマグロが釣り上げられるほどの美しさで、近代高層建築と自然が調和する理想都市でもある。市内観光は、19世紀の歴史建築や広大なキングス・パーク、動物園など、ほぼ半日で歩いて回れるほど。緑も多く快適な都市だ。



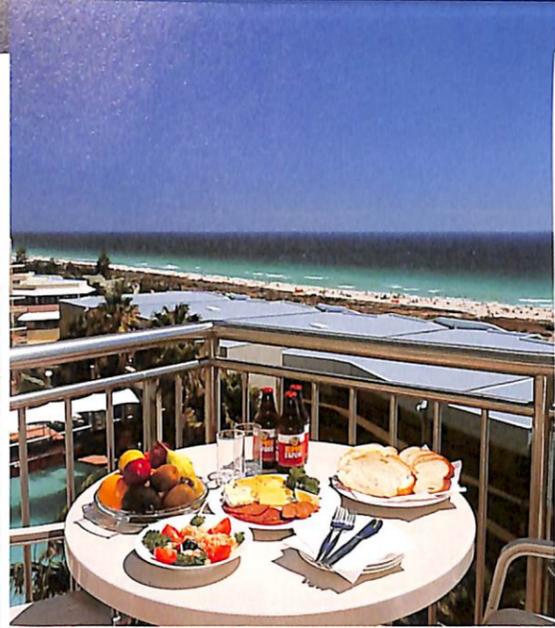
ロンドン・コート
1937年に建てられたチューダー王朝風ショッピング・アーケード。ヘイ・モールとセント・ジョーンズ・テラスを結び、その入り口には15分ごとに時刻を告げる名物の掛掛け時計やビックベンのレプリカがある。内部にはオパール、アンティーク、アクセサリ、革製品、ニットなどを扱うオーストラリアならではのブティックや花屋、カフェテリアが並んでいる。日曜でも開いている店が多く、古き良き時代の気分を堪能できる。



西オーストラリア・アート・ギャラリー
パース中央駅北口から回廊で歩いてすぐの場所にある現代美術館。現代オーストラリアのアーティストの作品を中心に、意欲的なプロジェクトを試みるギャラリーとして知られる。取材時に行われていたのは、「MAO GOES POP CHINA POST-1989」。天安門事件以降、オーストラリアに急増する中国系移民との共生を視野に入れた現代中国系アーティストの作品展だった。周囲は、西オーストラリア州の歴史を扱う博物館、図書館、美術大学などカルチャー施設のコンプレックスを形成している。
◆James Street Mall (09) 328-7233



コヌフ・ワイルドライフ・パーク
パース南東24kmにある16haに及ぶ広大な自然公園。カンガルー、エミュ、ブラックスワン、ペリカン、ウォンバット、コアラなど、オーストラリアを代表する動物たちが放し飼いで生育されている。園内にはミニチュアの機関車が走り、バーベキューも楽しめる。毎日午後1時からコアラを抱くことができる。もっと近郊で動物と遊びたいなら、カヴァンシャム野生公園 (Arthur Street, West Swan (09) 274-2202) に行くといい。
◆Kelmscott 6111. (09) 390-6090



テラスでとるブランチ、オーギー流にビール片手に

サンセット・コースト おすすめコンドミニウム



オブザベーション・ライズ・ラグジュアリー・アパートメント
Observation Rise Luxury Apartment
93年にオープンしたばかりの豪華アパートメントで、すべての部屋がビーチに面している。屋内、屋外に2つのプール、テニスコート、スパ、ジム、サウナなど、施設の充実と究極の快適さを併せ持つ。夕日の美しさは格別で、リゾート気分は盛り上がる。◆183, West Coast Highway, Scarborough (09) 245-0800 FAX (09) 341-8438 (日本語可)



オールシーズンズ・ウエスト・ビーチ・ラグーン
All Seasons West Beach Lagoon
家族的なサービス、気さくなスタッフが恵まれたロングステイ型コンドミニウム。レストラン、美容院、プール、バーベキューコーナー、レンタル自転車、パラソルの貸し出しなど、家族や気ままな仲間でのんびり楽しむための用意は、しっかり整えられている。◆251, West Coast Highway, Scarborough (09) 341-6122 FAX (09) 341-5944

LIFE DESK SERVICE INFORMATION

LIFE DESKは、ライフ国際カード会員の皆様に、お気軽にお立ち寄りいただける海外の窓口です。日本語を話せるスタッフが皆様のお問い合わせにお答えするほか、各種サービスの御案内もしております。ご出発前、現地問わず気軽にご連絡ください。なお、シドニー方面への旅行の際には、LIFE DESKへお立ち寄りください。

■LIFE DESK オーストラリア・シドニー
TEL: 02-257-0079
Level 27, Grosvenor Place, 225 George St, Sydney, N.S.W. 2000
電話受付時間 9:00~18:00
レセプションカウンター営業時間 9:00~17:00

コンドミニウムは、ビーチサイドで長い休暇を過ごす人たちのためのアパートメント。サンセット・コーストでは最もポピュラーなステイのかたちで、ビーチ沿いに建ち並ぶマンション・タイプの建築のほとんどはコンドミニウムだと考えて間違いないだろう。快適でゴージャス、しかも格安な料金とくれば、利用しない手はない。

居室は普通、リビングルームとベッドルームで構成されるスイートタイプだ。間取りがゆとりたっていて、生活空間があることが利点。リビングの隣にはキッチンがあり、調理道具や食器も用意されている。洗濯機や乾燥機も備え付けられており、徹底した DO IT YOURSELF で、気ままなリゾートライフが楽しめる。もちろん敷地内には、プール、テニスコート、サウナ、レストラン、美容院などの設備もある。ほとんどホテルライフと変わらないファッションリテイを使う。メイドサービスは週1回が一般的だが、頼めばやってくれる。フロントは家族

的な雰囲気、ホテルのツアーデスク同様、各種アクティビティの申し込みも受け付けており、コンドミニウムを拠点にさまざまなツアーに参加できる。料金はコンドミニウムのランク、シーズンやフロアの高さ、海が見える部屋かどうかなどの条件により違いますが、ホテルに比べると驚くほど安い。2ベッドルームの部屋なら4人、3ベッドルームの部屋なら最低6人泊まれて、週7000円くらいからある。予約の方法は、代理店に頼むと簡単だが、直接日本からネットで申し込むこともできる。その場合、宿泊日、日数、人数と好みの部屋のタイプをリクエストしておく必要がある。予約は約2週間前から受け付けている。現地で直接見つけることもできるので、とりあえず予約しておいて、気に入ったコンドミニウムを見つけたら移動するのもよい。支払いはもちろん、LIFE VISA / MASTER CARD で OK。

コンドミニウムに泊まるには How to stay Condominium



レンタル・サイクルは必需品だ



サウナ、ジム、スパもある屋内プール



テニスで汗をかいたら、即ビーチがウレシイ



自炊に飽きたら、レストランのディナーへ

奇妙な味覚(オーストラリア)

人というものは、ときによって奇妙な発想をするものだ。それが時によっては、人をおどろかせたり、嫌悪感をいだかせたり、怒らせたり、感心させたり、あるいは人類の文化や生活の発展に役立ったりもする。まともな発想だけでは、人々の生活は楽しくならない。食べものもそんなところがある。よくナマコをはじめ食べたヤツがすごいという。しかし、飢えていたら、思わず口にすることは、たいした勇気などいらない。それよりナマコを干し保存し、それをまた、水でもどし、煮るといっほうか不思議。中国ではすべての食材を干してしまう。その数かぎりなし。だが、我々人類が口にすることで、不思議なものはいくつもある。ここに書くことはできないが、アフリカのある部族や、オーストラリアのアボリジニだって、奇妙な砂漠の動物を口にしている。しかし、そのオーストラリアで、しかもレストランで、この Carpet bag steak を口にしたときは、人というものはおもしろいことを考えるものだと思いつくと思った。ステーキのなかにカキを挟みこんで焼く。ラクダのおなかに羊を入れ、羊のおなかに鶏を入れ、鶏のおなかに鳩を入れ、鳩のおなかに魚を入れ、魚のおなかに…、というようなおなかにつめものをする料理があると聞いてユカイユカイと思ったが、この「ステーキのなかにカキ」にもビックリである。ステーキの上にフォアグラというのはあり、ソースにも赤ワインのものもあり、グリーンペッパーたっぷり、ブルーチーズのソース、などなどあるが、どうしてもカキと肉とのとりあわせはなかなか思いつかない。日本人にはなかなかうまいものだが、オーストラリア以外の外国人はどう思っているのだろうか。

ステーキ用の肉(ヒレ、サーロイン)は250gから300g。厚さは3cmから4cmはほしい。ステーキの片側を横に半分にナイフを入れ、そこにカキを塩、コショウ、バターで炒め、白ワインをふりかけ焼いたものを、挟み入れる。紐でくくってもよいがそのままでもよい。塩、コショウし両面をこんがり焼き、かなり肉が厚いので200度に熱くしたオーブンに入れ15分ほど焼く。つけ合わせは、ボンフリット、クレソン、そしてディジョン・マスタード。

西川 治
旅する
胃袋 No.1



にしかわおさむ 写真家・文筆家
1940年生まれ。世界数十か国を旅して遊びと味に精通。ダイナミックな料理人としても評判が高い。著書多数

文●写真●料理 西川治

パース・ショッピング・ガイド

コンドミニウム・ライフの合間に、ショッピングが楽しめなくなったら、迷わずパースへ行こう。タクシーで市内まで15分。ショップはヘイ・ストリート周辺に集中している。

大地と交感する
アボリジナル・アート

オーストラリアの先住民アボリジニの伝統工芸品。彼らはこの世のすべてのモノに精霊が宿ると信じ、石や樹皮、生活用具、さらには身体へ、神話や伝承の世界を描写した。驚くほどポップな作風で、お土産には最適だ。

- 1: Tシャツ/アボリジニの神話世界をプリントしたTシャツは手頃なお土産。28\$から。
- 2: ヘビ/アボリジニはブッシュに住む動物を神と仰ぎ、造形化する。ヘビの木彫は95\$。
- 3: ブーメラン/今でもアボリジニが狩猟に使うというブーメランも人気。7.5\$から22.5\$くらい。
- 4: ランチョンマット/図柄も美しいランチョンマット。使うのがもったいなくなる。32.5\$から。
- 5: イヤリング/色鮮やかにペイントされた木彫りのイヤリングもステキ。10\$から。
- 6: 装飾品/ネックレスやブレスレットもかわいい。左から7.5\$, 12.5\$, 25\$。

Shopping
in
Perth



オーストラリアン・スペシャル・スーベニール
大自然に抱かれたオーストラリアならではの特産品、お買い得な逸品の数々。特に皮製品、オパール、ニット・ウエアは品質も確かです。

- 7: ニット/アボリジニ・デザイナー、ジミー・バイクによる大胆な色遣いのニット作品。350\$から。
- 8: オパール/世界の生産高の95%を誇るオパールの息を呑む輝き。左から14000\$, 6000\$, 15000\$。
- 9: シープスキン/毛足の柔らかいシープスキン・ジャケットは、ブッシュに生きるオージーの必需品。575\$。

ショップ・カタログ	 <p>クリエイティブ・ネイティブ CREATIVE NATIVE キング・ストリートにあるアボリジナル・アート・ギャラリー。1Fはショップ、2Fはギャラリーで、伝統絵画からコンテンポラリー・アートまでコレクションは充実。アクセサリーや陶器などさまざまな工芸品がある。◆32, King St. (09) 322-3398</p>	 <p>オパール・センター The Opal Centre ロンドン・コートの中にあるオパール専門店。七色に輝く高価なブラック・オパールから手頃なトリプレット・オパールまで、日本語の通じる店員もいて、親切に見立ててくれる。50\$くらいのペンダントからある。◆Shop47-48, London Court (09) 325-2486</p>
	 <p>ビュアリー・オーストラリアン・クロージング・カンパニー Purely Australian Clothing Company 世界的にも名高いアボリジナル・アートの巨匠ジミー・バイクのオリジナル・ブランド、「desert designs」の店。Tシャツ、トレーナー、スウェット・パンツなどカジュアル・ウエアやニット、皮製品は人気がある。◆731, Hay Mall St. (09) 321-4697</p>	 <p>カントリー・レザー Country Leather オーストラリア土産といえばシープスキン。カーベットやデザート・ブーツ、手袋、ジャケットなど品揃えは抜群。コアラのぬいぐるみやTシャツなど定番土産も揃っており、まとめてショッピングできる。◆75, Barrack St. (09) 325-4220</p>

<p>ツアーで楽しむ オーストラリア</p> <p>じっくり、ゆっくり、 パースを巡る 「パースの休日」</p>	<p>パースの大自然と開拓時代の面影をゆっくりと楽しみたいという方には、パースだけに滞在するこんなツアーがあります。コースは5、6、8日間の3コース。宿泊はヘルトン、パースウッド、ハイアットの3つからチョイス。出発日は5日間が土曜日、6日間が月・水曜日、8日間が月・水・土曜日。水曜日発のみ着後の昼食と市内観光がつきます。料金は、5日間コースが10万9200円~19万1000円、6日間コースが11万6200円~20万円、8日間コースが12万6200円~21万4000円。最少催行人員2名。</p>	<p>○左記ツアーの他にもたくさんのツアーをご用意しております。日程、料金、出発日など詳しくは下記までお問い合わせください。また、本誌掲載済みハガキでもパンフレット(無料)のご請求ができますのでご利用ください。</p> <p>●お問い合わせ先 〒101 東京都千代田区神田駿河台4-3 新お茶の水ビル18F 運輸大臣登録一般旅行代理店第3893号 株式会社ライフ トラベルショップお茶の水 TEL: 03-3233-9119</p>
--	---	--